

(別紙)

人工地盤の整備・管理上の課題に関する検討会

1. 目的・概要

人口減少時代を迎えた我が国では、環境負荷や財政負担の軽減の観点から、社会基盤や住宅の既存ストック活用の重要性が指摘され、政策にも変化が見られている。例えば、無秩序な市街地拡大の抑制、街なか居住や中心市街地の活性化が推進されるとともに、住宅の長寿命化や居住環境の向上等、住宅ストックの質の向上が図られつつある。

今後、このような政策をより一層推進するためには、中心市街地の土地の有効利用や住宅・構造物の既存ストック活用が容易となるような整備・管理手法を充実させる必要がある。

このような観点で注目すべき手法の一つとして、人工地盤の活用が挙げられる。人工地盤は、我が国では昭和40年代から利用が始まり、主にペDESTリアンデッキや空中通路、住宅の基盤として用いられてきた。この手法により、限られた市街地の空間を人工地盤により立体・重層的に活用することで、歩車分離やオープンスペースの確保等、都市の居住環境の向上や安全な居住空間の創出が期待できる。しかし、このような成果を得るために必要な整備・管理上の課題及び人工地盤を用いた市街地整備の具体的なニーズや施策の展開可能性について、土地政策上の整理が十分に行われていない。

このため、今後の人口減少社会にふさわしい、都市の立体・重層的利用を支え長期耐用性のある人工地盤及びこれに類するものの整備・管理のあり方を検討する際に必要な基礎資料を得るとともに、人工地盤の整備・管理の実態及び具体的なニーズの把握並びに課題の抽出等を行うため、本検討会を設置する。

2. 設置期間

平成19年12月～平成20年3月（開催回数は3回程度）

3. 委員（敬称略、五十音順）

座長	小林 秀樹	千葉大学大学院工学研究科建築・都市科学専攻 教授
委員	太田 慶太	森ビル株式会社企画・調査室 副室長
	岸井 隆幸	日本大学理工学部 教授
	栗原 徹	(独)都市再生機構業務第一部再開発チーム チームリーダー
	高口 洋人	早稲田大学理工学術院創造理工学研究科建築学専攻 准教授
	友田 勝己	横浜市都市整備局 市街地整備部長
	藤本 秀一	(独)建築研究所住宅・都市研究グループ 主任研究員
	森 高志	東京都都市整備局市街地整備部 区画整理課長
	山野目章夫	早稲田大学大学院法務研究科 教授

以上